

社会福祉法人 ぶったあ福祉会
グループホームぶったあ
第1回地域連携推進会議録

- ・日 時 2025年6月21日（土）14時～15時
- ・場 所 兵庫県淡路市岩屋604 グループホームぶったあ「いろは」

1 開会あいさつ

◆社会福祉法人ぶったあ福祉会 中谷勇一理事長

ぶったあは障害のある人が学校を卒業した後の行き先がない現実、住み慣れた地域を離れないといけない現実をなんとかしようと思い、共同作業所の立ち上げに至った。その後、親亡き後の問題もありグループホーム（当時：ケアホーム）開設に至った。当時は淡路で初めてのホームで資金繰りに苦労した記憶がある。今は利用者の入居理由、家庭事情や抱える問題は複雑化しており、また、障害の重度化、高齢化も課題になっている。推進会議でみなさんから気づいた点などを助言、指導いただきながら支援に努めたい。

2 出席者紹介～自己紹介

TY（利用者）匿名

片山寮子（家族）

山市久明（神の前町内会会長）

森 孝宏（社協岩屋センター長）

吉田隆一（設計事務所代表）

内藤浩二（淡路市地域福祉課）

加藤妙子（淡路市地域福祉課）

鈴木 健（グループホーム職員職員）

藤坂幸広（主任相談支援専門員）

伊郷真一郎（グループホーム管理者）司会進行

3 資料説明

4 議題

① 地域連携推進会議について

◆淡路市地域福祉課 内藤氏

令和6年度報酬改定で会議開催は努力義務、令和7年度から義務になっている。会議の目的はおおむね資料の通りだが、利用者が地域行事に参加したり、住民と一緒に活動する機会を積極的に持ち、地域の一員として生活を送り、顔の見える関係づくりが大事と考える。地域連携推進会議は堅苦しいものでなく、グループホームと地域住民が気軽にいろんな情報を交換できる場ととらえてもらえば良い。

② グループホーム（共同生活援助）について

③ グループホームぶったあについて

◆神の前町内会長 山市久明氏

町内会にグループホームがあることは知っていたが、実際に中を見ることは初めて。

◆家族 片山寮子氏

学校卒業後、行き場所に困っていた時にぶったあ共同作業所ができて助かった。グループホーム「ここから」開設時から息子が入居したが、当時は息子が嫌になって帰って来るのではないかと心配したが、一度もそんなことはなく過ごせている。入居した時は息子も私もまだ若かったけど、今は親亡き後の問題を肌を感じているし、グループホームに入居できて親の立場では良かったと感じている。何より、地元で家から近い場所にグループホームがあるので、すぐに様子を見に行けることが安心だし本当に助かっている。

④ 質疑応答

◆入居者 TYさん

ご飯がおいしい。体重が気になるし、病気の人もいるので食事制限がある。お金の管理をしてくれるから安心。

※会議終了後、全員で施設見学を実施